

天皇誕生日レセプションでの挨拶

2025（令和7）年2月26日
日本台湾交流協会台北事務所代表 片山和之

蕭美琴副総統閣下、韓国瑜立法院長閣下、蘇嘉全台湾日本関係協会会長閣下、呉釗燮国家安全会議秘書長閣下、顧立雄国防部長閣下、御来賓の皆様、御出席の皆様、こんばんは。

春節は如何お過ごしになりましたでしょうか？日本人にとり、陽暦と陰暦、2回新年をお祝いできるのは台湾生活の特典です。更に、本日、天皇誕生日レセプションを開催でき、新年早々三重の喜びであります。

台湾各地から大勢の方にお集まり頂き、心より感謝申し上げます。天皇陛下は2月23日に満65歳の誕生日をお迎えになりました。皆様とともに心よりお祝い申し上げたいと存じます。日本国憲法第1条は天皇を日本国及び日本国民統合の象徴と規定しています。私は天皇陛下と同じ1960年に生を受け、昭和、平成、令和の時代を陛下とともに歩んで来ましたので、感慨も格別です。

「光陰矢の如し、月日は梭の如し」と言いますが、台湾に赴任してあっという間に1年3ヶ月が経過しました。この間、台湾では新たな総統・副総統及び立法委員が民主的な選挙で選ばれました。日本も昨年9月に自民党総裁選、10月には衆議院解散及び総選挙が行われ岸田政権から石破政権へと移行しました。

台湾は、日本にとり極めて重要なパートナーであり、大切な友人です。新政権下においても日台関係の重要性にいささかの変わりはありません。震災や感染症時の相互支援等を通じて、両者間には今、「善の循環」が実現しています。

日本と台湾は、自由、民主主義、法の支配、人権の尊重といった基本的価値を共有するパートナーです。台湾海峡の平和と安定は、日本を含む国際社会の繁栄と安全にとっても不可欠の要素です。台湾を巡る問題は、力による一方的な現状変更ではなく対話により平和的に解決されるべきであるという日本の一貫した立場を今後も機会あるごとに国際社会に対して発信していきたいと存じます。

台湾の人口は約2千340万人で世界第58位ですが、経済規模（GDP）は世界第22位、一人当たりでは日本を抜き、ヘリテージ財団発表の経済自由度指数では世界第4位、先端半導体の生産能力では世界の約7割を占め、グローバル・サプライチェーンの不可欠の一翼を担っています。台湾にとり日本は第3位、

日本にとり台湾は第4位の貿易パートナーです。TSMC熊本第一工場が最近本格稼働するなど投資面でも両者の関係は緊密です。双方の貿易円滑化も進んでおり、昨年、台湾では東日本大震災に伴う食品輸入規制の更なる緩和が、日本では台湾産赤肉ドラゴンフルーツや龍虎ハタの輸入解禁が行われました。

台湾赴任以来、1年3カ月、台北での活動に加えて地方出張も積極的に行いました。この間、個人旅行を含め地方を延べ39回訪問しました。また、できるだけ多くの台湾各界の友人達と交流するため、会食には268回、交流行事にも87回出席しました。更に、日本を理解してもらうべく、講演を計13回行い、メディア・インタビューにも約13回応じました。

言語はお互いを理解する上での重要な手段です。台湾の日本語教育や日本研究分野で更に支援を行っていきたいと思います。

若者は次世代の主人公であり、今後の日台交流発展を考える上で重要です。そのような観点から、最近、台湾の大学生・高校生との定期的交流を開始しました。

スポーツ交流もしかりであり、昨年のパリ・オリンピックで台湾は過去2番目の好成績を収めました。また、野球国際大会プレミア12では台湾チームが見事優勝を果たしました。改めてお祝い申し上げます。また、来年開催される「ワールドベースボールクラシック(WBC)」の決勝戦で台湾チームと日本チームが再び対戦できることを期待しています。

野球と言えば、嘉義農林が1931年の甲子園大会で準優勝した際の物語をテーマにしたミュージカルが昨年嘉義市で上演され私も観賞しましたが、大変感動的な内容でした。

日台間の人物交流は市民レベルにおける相互理解の基礎です。現在、台湾には登録ベースで2万2千人近くの邦人が暮らしていますが、これは世界で第12位の規模です。日本にも約6万7千人の台湾人が生活しています。観光やビジネス等でも多くの邦人が台湾を訪れています。また、昨年日本を訪問した台湾人は遂に600万人を越え史上最高を記録しました。

ここで少し個人的な思い出を紹介したいと思います。私は1985年に初めて台湾を訪問しました。当時は戒厳令が敷かれ、野党や新たな新聞の発行は認められず、大陸との交流はなく、台湾社会も経済的にまだ豊かではありませんでした。訪問する先々で、日本語教育を受けた世代、国民党の老兵、台湾で生まれ育った若い人々といった様々な年代の様々な背景を持つ人々との忘れがたい出会いがありました。台中では昼食に立ち寄った食堂で上海出身の御主人と夜中まで大陸の話をしました。埔里の街中で声をかけられた青年とは40年経った今も交流があり、今日のレセプションにも宜蘭から駆けつけてくれました。高雄駅

のキオスクで出会った老人は旧帝国陸軍二等兵として先の戦争を戦い、日本人以上の日本精神の持ち主でした。当時街中には「酒研尙賣無」、「明天會更好」の歌が流れ、「油麻菜籽」や「童年往事」と言った台湾映画を観て感動し、台湾をもっと知りたいと思ったことを記憶しています。

翌年米国の大学院に留学しましたが、ここで台湾との更に深い関係ができました。キャンパス内で多くの台湾留学生や研究者と知り合いました。彼らとの交流から強い刺激を受け、当初日中関係について研究する予定でしたが、テーマを急遽変更し、「民進党の設立と台湾の民主化」につきエズラ・ボーゲル教授の指導の下、修士論文を執筆しました。その時ハーバードのキャンパスで知り合ったり、お見かけした台湾人は、後に副総統、監察院長、外交部長、民進党主席、駐日代表、シンクタンク創設者、ハーバード大学教授等になりました。本日のレセプションにその内の何名かに参加頂いております。ありがとうございます。

台湾は現在、国際社会にとり不可欠のパートナーとして力強く羽ばたいています。日本のお隣に、経済・技術的に発展し、政治が民主化され、社会が成熟し安定し、関係が友好的で緊密な台湾という存在があることは、日本にとり天佑と言っても過言ではない程重要で死活的であると思います。

約40年間の外務省生活を経て、遂に台湾に赴任できたことは、自分の外交官人生のスタートは台湾、ゴールも台湾であり、台湾を介して「円環」として繋がったような気持ちです。思い返せば、40年前の初訪台の初日、台北で食べた夕食も「円環」の屋台での蚵仔煎でした。台湾との縁に導かれて今日があるような気がします。

本日は、日本の料理や飲物も用意しておりますのでお楽しみ下さい。この機会に、観光PRを含め本日のレセプションに御協力頂いた企業・自治体等関係者に感謝申し上げます。

最後に、天皇陛下の末永き御健康と皇室の弥栄、日台関係の益々の発展、そして皆様の御健勝を祈念し、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。